

令和5年

署勢概要



川崎市多摩消防署

はじめに

消防は、災害から市民の生命・財産を守り、市民生活の安全を確保するため、多岐にわたる業務に取り組んでおります。

この「署勢概要」は、多摩消防署における火災の予防・警戒及び鎮圧並びに救急・救助業務を行うための施設や人員等の現況を表すとともに、令和4年中の諸活動の統計を収めたものです。

今後の地域防災のための資料として御活用いただければ幸いです。

令和5年8月

川崎市多摩消防署長

目 次

総 括	
多摩消防署のあゆみ	1
管内状況、署所の所在地・庁舎概要	8
多摩消防署・所(団)配置図	9
署・所の受持区域	10
署員の配置	11
消防車両の配置状況	12
消防署の組織・事務分掌	13
管内状況	
防火対象物の状況	14
中高層建築物の状況	15
危険物施設の状況	16
少量危険物施設の状況、指定可燃物施設の状況	17
署所別消防水利の状況	18
災害統計	
災害出場種別・状況	19
火災発生状況	20
火災の原因別状況	21
町名別火災発生状況	22
5年間の火災統計	23
5年間の主な火災原因	24
救急統計	
救急出場件数・搬送人員、等症別・男女別搬送状況	25
救急事故別・月別出場件数	26
年齢別搬送状況、等症別・男女別搬送状況	27
消 防 団	
多摩消防団の定員・現員	28
多摩消防団器具置場の状況	29
多摩消防団消防車両等の配置状況、小型動力ポンプ等の配置状況	30
そ の 他	
住宅防火のポイント	

多摩消防署のあゆみ

年月	事項
昭和15年 12月	神奈川県川崎消防署を設置した。
昭和18年 12月	神奈川県中原消防署を設置した。
昭和20年 11月	中原消防署登戸出張所を設置した。
昭和22年 10月	消防団令により、高津消防団を設置した。
昭和23年 3月	消防組織法施行により、従来の官設消防を市に移管し、川崎市消防本部を設置(川崎、中原署)した。
昭和32年 6月	中原消防署登戸出張所を移転改築した。
8月	登戸、製紙工場の火災で1,468㎡を焼失した。
昭和34年 5月	登戸、料理店の火災で1,452㎡を焼失した。
8月	川崎市消防本部の名称を川崎市消防局に改称した。
昭和37年 7月	菅、塗装工業所の火災で773㎡を焼失した。
昭和38年 5月	中原消防署百合丘出張所を新築開設した。
8月	中原消防署高津出張所を改築し、高津消防署に昇格、登戸、百合丘出張所は同署所属とした。
昭和39年 6月	高津消防署菅出張所を新築開設した。
昭和40年 9月	登戸出張所に救急車を配置した。
昭和43年 6月	高津消防署登戸出張所を改築し、稲田消防署に昇格した。 総員83人、消防車9台、救急隊1隊、2出張所(百合丘、菅)を配置した。 初代署長に米谷 勝太郎氏が就任した。 稲田消防団が発足した。(定員248人、3分団:稲田、生田、柿生) 初代団長に上原 幸次郎氏が就任した。 稲田防火協会が発足した。 初代稲田防火協会長に白井 鋼之助氏が就任した。
10月	稲田消防研究会が発足した。(会員数36事業所) 初代稲田消防研究会長に(株)松下電器東京研究所 大野 茂氏が就任した。
昭和44年 4月	稲田消防署柿生出張所を新築開設した。
昭和45年 4月	稲田消防研究会第二代会長に日本安全硝子(株) 遠藤 厚氏が就任した。
5月	第二代署長に小野 實氏が就任した。
12月	柿生出張所に救急車を配置した。
昭和46年 4月	稲田消防研究会第三代会長に(株)電元社製作所 藤田 博氏が就任した。
5月	稲田消防署宿河原出張所を新築開設した。
9月	登戸、繊維工場の火災で604㎡を焼失した。
10月	機構改革により署の次長制を廃し、庶務課、警防1課・2課の計3課8係に拡充した。
11月	生田緑地の人工がけ崩れ実験中、大規模ながけ崩れが発生し、死者15人、負傷者12人を生じた。
昭和47年 4月	区制施行に伴い、「稲田消防署」を「多摩消防署」に、「稲田消防団」を「多摩消防団」に名称変更した。
7月	「稲田防火協会」を「多摩防火協会」に、「稲田消防研究会」を「多摩消防研究会」に名称変更した。
12月	多摩消防署に18m級はしご付消防ポンプ自動車を配置した。
昭和49年 1月	登戸、建具作業所併用住宅の火災で310㎡を焼失した。
7月	第三代署長に古野 義則氏が就任した。
9月	多摩消防署栗谷出張所を新築開設した。 多摩川洪水(台風16号)で床上浸水210戸、床下浸水142戸の被害を受け、東京側の堤防が損壊し、19戸が流失した。
10月	栗谷出張所に救急車を配置した。
昭和50年 2月	高津消防団長尾班が多摩消防団長尾班に編入した。
4月	多摩消防研究会第四代会長に玉川製紙(株) 吉澤 清氏が就任した。
12月	救急隊を3部制とした。

年月	事項
昭和51年 9月	9. 9集中豪雨(台風17号)により管内では、がけ崩れ9箇所、家屋流失2棟など被害が続出した。
昭和52年 5月	多摩消防署王禅寺出張所を新築開設した。
6月	多摩防火協会第二代会長に遠藤 恭氏が就任した。
8月	登戸、スナックの火災で10㎡を焼失し、8人が負傷した。
昭和53年 4月	機構改革により署の庶務課長は消防司令長に昇格、柿生出張所に消防司令補を配置した。
12月	菅、建具卸売センター併用住宅の火災で343㎡を焼失した。
昭和54年 12月	宿河原出張所に救急車を配置した。(総員194人)
昭和55年 2月	多摩消防署に救助工作車を配置し、多摩特別救助隊が発足した。
5月	登戸新町、マンションの火災で住宅67㎡を焼失し、死者1人、負傷者2人を生じた。
昭和56年 4月	第四代署長に長島 忠治氏が就任した。
5月	細山2丁目、一般住宅の火災で居室18㎡を焼失し、死者4人を生じた。
昭和57年 1月	布田、市立下布田小学校家庭科室床下よりプロパンガスが約621㎡漏えいした。
3月	多摩消防署に24m級のはしご付消防ポンプ車を更新配置した。
5月	生田2丁目、一般住宅の火災で1棟66㎡が全焼し、死者2人を生じた。
昭和58年 2月	第五代署長に伊東 勝美氏が就任した。
昭和59年 1月	生田3丁目、市営住宅の火災で30㎡を焼失し、死者1人、負傷者3人を生じた。
4月	宿河原、栗谷出張所に消防司令補を配置した。
7月	多摩消防研究会第五代会長に昭和エーテル(株) 野田 郁夫氏が就任した。
7月	多摩地区婦人消防隊委員会が発足した。(委員数138人) 初代委員長に田代 千代子氏が就任した。
昭和60年 7月	分区により麻生消防署が開設し、3出張所(王禅寺、百合丘、柿生)が移管され、多摩消防署は3出張所(宿河原、菅、栗谷)に縮小、消防車両8台、救急車両2台となった。
昭和62年 4月	伊東署長が消防監に昇任した。 菅出張所に消防司令補を配置した。 栗谷出張所残留要員削減のため、施設を一部改装し合理化を図った。 多摩消防研究会第六代会長に高甚商事(株) 高橋 終一氏が就任した。
昭和63年 4月	第六代署長に井上 榮氏が就任した。
平成元年 2月	多摩消防団が(財)日本消防協会から優良消防団として表彰旗を授与された。
4月	機構改革により消防署庶務課長制を廃し、副署長及び予防課長制とし、庶務係、予防係、保安係を予防課に統合し、警防第1課に救急係を新設、従来の機械係を廃止した。
平成2年 4月	第七代署長に杉本 保氏が就任した。 多摩救急隊(本署1・2・3部救急隊)に消防司令補を配置した。 多摩地区幼年消防クラブが発足した。
5月	多摩消防研究会第七代会長に(株)登戸石油 井上 準之輔氏が就任した。
6月	菅出張所の改築工事の為、菅北浦4丁目1番5号の仮庁舎へ一時移転した。
7月	柘形7丁目、川崎市立日本民家園内の国指定重要文化財「旧太田家」の火災で、延べ面積79㎡建物1棟が全焼した。
平成3年 3月	柘形2丁目6番1号に多摩消防署(本署)が移転し、新庁舎で業務を開始した。 新庁舎落成記念にあたり、次の物件の寄付を受けた。 1 川崎多摩ロータリークラブから「トヨタハイエースワゴン」 2 結城 天童画伯から日本画30号「光る鳥海山」(協力団体 多摩消防研究会) 3 多摩防火協会及び多摩消防団有志から「火災予防広告塔」 4 川崎多摩ライオンズクラブ及び川崎生田ライオンズクラブから「ブロンズ裸婦像」
4月	多摩消防署に30m級はしご付消防自動車(マギルス)を更新配置した。 栗谷救急隊(栗谷1・2・3部救急隊)に消防司令補を配置した。 菅出張所の改築工事が完了し、新庁舎で業務を開始した。 多摩地区少年消防クラブ運営委員会が発足した。 初代会長に新井 幸雄氏が就任した。
5月	多摩地区少年消防クラブが発足した。

年 月	事 項
平成3年 10月	多摩消防署のポンプ積載車(乗車定員6人)を更新配置した。
平成4年 3月	多摩消防署の水槽付きポンプ自動車を更新した。(タンク容量2000ℓ)
4月	機構改革により各係長は消防司令に昇格、警備係に消防司令補を配置した。
8月	生田1丁目、工場の火災で1棟465㎡が全焼した。
9月	機構改革により、救急隊を3部制から2部制とした。
10月	菅出張所に救助艇を配置した。
12月	多摩消防署に資材搬送車を配置した。
平成5年 4月	杉本署長が消防監に昇格した。 機構改革により、栗谷出張所長は消防司令に昇格した。
11月	菅仙谷、一般住宅の火災で1棟全焼し、死者6人を生じた。 登戸、登戸百貨店の火災で1,300㎡を焼失した。
平成6年 3月	多摩消防署に高規格救急車、救急救命士を配置した。 多摩消防団が(財)神奈川県消防協会から優秀消防団として竿頭綬を授与された。
4月	機構改革により、菅出張所長は消防司令に昇格した。
12月	多摩消防団第二代団長に井上 昭一氏が就任した。
平成7年 1月	多摩消防署に救助工作車(Ⅱ型)を更新配置した。
2月	多摩消防団が(財)日本消防協会から優秀消防団として竿頭綬を授与された。
3月	多摩防火協会が神奈川県知事から安全功労表彰を授与された。
4月	機構改革により、警防課長は消防司令長に昇格した。 初代消防団長上原 幸次郎氏は正六位に叙され勲五等旭日雙光章叙勲の栄に浴した。
7月	多摩防火協会が消防庁長官から安全功労表彰を授与された。
9月	栗谷・宿河原出張所の消防ポンプ自動車を更新配置した。
11月	栗谷出張所に高規格救急車を配置した。
平成8年 4月	第八代署長に梶川 昭夫氏が就任した。
12月	多摩消防ボランティア委員会が発足した。(委員数148人) 初代委員長に吉澤 徳重氏が就任した。
平成9年 3月	菅出張所に消防ポンプ自動車を更新配置した。 多摩消防団が消防庁長官から優秀消防団として竿頭綬を授与された。
11月	多摩防火協会が(社)日本善行会から成人善行表彰を授与された。
平成10年 2月	多摩消防署に消防ポンプ自動車を更新配置した。
4月	第九代署長に木村 泰茂氏が就任した。 登戸、事業所の火災で、死者3人を生じた。
11月	多摩防火協会が火災予防思想の普及啓発に尽力したとして川崎市長表彰を授与された。
平成11年 4月	機構改革により、宿河原出張所長は消防司令に昇格した。 (全出張所に消防司令を配置) 警防第2課に救急係を設置した。
6月	多摩防火協会第三代会長に川崎 善太郎氏が就任した。
平成12年 2月	多摩消防署に高規格救急車を更新配置した。
4月	第十代署長に山口 仁臣氏が就任した。
平成13年 4月	第十一代署長に水谷 哲氏が就任した。 多摩消防署に女性救急隊員を配置した。
平成14年 2月	柘形2丁目、病院の火災で2棟が全焼したほか、山林200㎡を焼失した。
3月	宿河原2丁目、共同住宅の火災で16㎡を焼失し、死者2人を生じた。
平成15年 3月	菅出張所に菅救急隊を更新配置した。 栗谷出張所に高規格救急車を更新配置した。 多摩消防署に非常用救急車を新配置、非常用消防ポンプ自動車を配置転換した。 宿河原出張所に運搬車を配置転換した。
4月	第十二代署長に田中 輝夫氏が就任した。 機構改革により、副署長が予防課長を兼務、警防統括担当主幹を配置した。
平成16年 3月	登戸、複合用途建物の火災で1棟が全焼し、計4棟で445㎡が焼失した。

年 月	事 項
平成16年 5月	多摩防火協会創立35周年記念事業として電光情報板を川崎市に寄贈、多摩消防署において除幕式を挙行了。 多摩消防研究会第八代会長に(有)小谷野商店 小谷野 弘氏が就任した
6月	登戸、倉庫の火災で1棟309㎡が全焼し、計4棟520㎡が焼失した。
10月	多摩消防署の広報車(乗車定員8人)を更新配置した。 登戸、一般住宅の火災で1棟122㎡が全焼、計4棟で260㎡を焼失し、死者1人を生じた。
11月	東三田2丁目、大学内の体育館から出火し、建築面積532㎡、延面積768㎡のうち、1階約350㎡、2階約100㎡を焼失した。
平成17年 4月	多摩消防団第三代団長に松澤 忠志氏が就任した。
6月	多摩消防研究会会員、(有)白鳥商店 白鳥 宏氏が優良危険物取扱者として(社)神奈川県危険物安全協会連合会会長表彰を受賞した。
10月	多摩消防研究会第九代会長に(株)スリオンテック 祖田 有造氏が就任した。
11月	元多摩消防団長 井上 昭一氏が瑞寶雙光章叙勲の栄に浴した。 宿河原4丁目、一般住宅の火災で1棟33㎡が全焼し、死者1人を生じた。
12月	布田、共同住宅の火災で25㎡を焼失し、死者1人を生じた。
平成18年 3月	柘形5丁目、共同住宅の火災で1棟100㎡が全焼、計3棟230㎡を焼失し、死者1人を生じた。
6月	多摩防火協会が(社)日本善行協会から特別表彰善行銀章を授与された。
8月	多摩消防署の査察車Ⅱを更新配置した。 多摩消防署運搬車を更新配置した。
10月	多摩防火協会が広報活動用車両を多摩消防署へ寄贈し、消防行政の充実に寄与したとして川崎市長から感謝状を授与された。
11月	登戸、共同住宅の火災で49㎡を焼失し、死者1人を生じた。
平成19年 3月	登戸、飲食店の火災で1棟157㎡が全焼し、計2棟225㎡を焼失した。
4月	第十三代署長に山口 高広氏が就任した。
5月	生田1丁目、一般住宅の火災で10㎡を焼失し、死者1人を生じた。
6月	多摩消防研究会会員、(株)スリオンテックが優良危険物事業所として(社)神奈川県危険物安全協会連合会会長表彰を受賞した。
10月	多摩消防署ポンプ積載車(乗車定員6人)を更新配置した。 多摩消防団生田分団東生田班のポンプ積載車を更新配置した。
12月	多摩消防署水槽付消防ポンプ自動車を更新した。(タンク容量2000ℓ)
平成20年 2月	栗谷2丁目、一般住宅の火災で1棟94㎡が全焼、計2棟226㎡を焼失し、死者1人を生じた。 多摩消防署に指揮車を配置した。
3月	多摩消防団が消防庁長官から表彰旗を授与された。
4月	多摩消防署に指揮情報隊を配置した。 多摩消防署に安全管理担当主査を配置した。
5月	警防統括担当主幹が区地域安全担当主幹に併任された。 中国四川大地震に国際救助隊員として柴田司令補が派遣された。
6月	多摩消防研究会第十代会長に(医)社団慶神会武田病院 奥田 尚史氏が就任した。 多摩消防研究会会員、(株)スリオンテックが危険物安全管理功労事業所として関東甲信越地区危険物安全協会連合会会長表彰を受賞した。
12月	多摩消防団稲田分団登戸班のポンプ積載車を更新配置した。
平成21年 3月	栗谷出張所に高規格救急車を更新配置した。
4月	第十四代署長に平野 敏行氏が就任した。 副署長が、区危機管理担当主幹に併任された。 機構改革により、予防課長が専任化された。 予防課に危険物・査察係を設置した。
6月	多摩消防研究会会員、(株)スリオンテックが優良危険物事業所として(財)全国危険物安全協会会長表彰を受賞した。 多摩消防研究会会員、高和電気工業(株) 古尾谷 隆氏が優良危険物取扱者として(社)神奈川県危険物安全協会連合会会長表彰を受賞した。

年 月	事 項
平成21年 9月	多摩消防署の査察車Ⅱを更新配置した。
12月	多摩消防団稲田分団登戸班のポンプ積載車を更新配置した。 多摩消防団生田分団中央生田班のポンプ積載車を更新配置した。
平成22年 2月	菅出張所の高規格救急車を更新配置した。
3月	多摩消防署多摩指揮1を更新配置した。 多摩消防署の救助工作車(Ⅱ型)を更新配置した。
4月	菅・宿河原・栗谷出張所の消防ポンプ自動車を更新配置した。 機構改革により警防統括担当主幹が担当課長(警防統括)、安全管理主査が担当係長(安全管理担当)に改正された。また副署長が区役所担当課長(危機管理)併任に改正された。
7月	川崎市防火協会連合会会長に川崎 善太郎氏が就任した。
11月	元多摩消防団副団長 竹間 清房氏が瑞寶単光章叙勲の栄に浴した。
12月	枡形4丁目、一般住宅の火災で1棟116㎡が全焼し、死者1人を生じた。
平成23年 3月	多摩消防署の多摩1を更新配置した。 東北地方太平洋沖地震発生に伴い、緊急消防援助隊(消防部隊・救急部隊)11隊を派遣した。
4月	第十五代署長に石井 敏幸氏が就任した。 多摩消防団第四代団長に松澤 喜義氏が就任した。
6月	多摩消防研究会会員、マクセルスリオンテック(株)が優良危険物事業所として(社)神奈川県危険物安全協会連合会会長表彰を受賞した。
8月	多摩消防団稲田分団菅班のポンプ積載車を更新配置した。 多摩消防団稲田分団宿河原・堰班のポンプ積載車を更新配置した。 多摩消防団稲田分団長尾班のポンプ積載車を更新配置した。 多摩消防団生田分団長沢班のポンプ積載車を更新配置した。
11月	多摩消防団機動部隊が発隊した。 元多摩消防団副団長 田中 隆浩氏が瑞寶単光章叙勲の栄に浴した。
平成24年 3月	多摩消防署に30m級先端屈折伸縮式はしご付消防自動車(マギルス)を更新配置した。
8月	多摩防火協会が、放送設備器具を多摩消防署へ寄贈し、消防行政の充実に寄与したとして、川崎市長から感謝状を授与された。
平成25年 3月	多摩消防署の高規格救急車を更新配置した。 多摩防火協会会長 川崎 善太郎氏が、神奈川県安全功労者賞を受賞した。
4月	第十六代署長に松野 忍氏が就任した。
6月	多摩消防研究会会員、(学)明治大学が優良危険物事業所として(一社)神奈川県危険物安全協会連合会会長表彰を受賞した。
7月	多摩防火協会会長 川崎 善太郎氏が、総務大臣安全功労者賞を受賞した。
平成26年 6月	多摩消防研究会会員、(株)マスダエレメント 増田 隆氏が優良危険物取扱者として(一社)神奈川県危険物安全協会連合会会長表彰を受賞した。
7月	多摩防火協会は、地域振興に取り組んでいる団体として川崎市制90周年式典において、川崎市長から功労賞を授与された。
8月	多摩消防団生田分団東生田班の器具置場の改築工事が完了した。
10月	寺尾台1丁目、共同住宅の火災で60㎡を焼失し、死者1人を生じた。
平成27年 1月	長尾7丁目、店舗併用共同住宅の火災で30㎡を焼失し、死者1人を生じた。
3月	多摩消防団が(公財)日本消防協会から竿頭綬を授与された。
4月	第十七代署長に並木 努氏が就任した。 機構改革があり、安全管理担当係長が廃止され、救急係長を警防課へ2名配置し、予防課に施設装備担当係長を配置した。
5月	多摩消防研究会第十一代会長に(株)マスダエレメント 増田 隆氏が就任した。
6月	多摩消防研究会会員、日立マクセル(株)スリオンテック事業本部が優良危険物関係事業所として消防庁長官表彰を受賞した。
12月	菅4丁目、共同住宅の火災で65㎡を焼失し、死者1人を生じた。
平成28年 3月	栗谷出張所の高規格救急車を更新配置した。
4月	第十八代署長に日迫 善行氏が就任した。

年 月	事 項
平成28年 6月	多摩消防研究会会員、(株)登戸石油 井上 暁氏が優良危険物取扱者として(一社)神奈川県危険物安全協会連合会会長表彰を受賞した。
7月	多摩防火協会第四代会長に岸井 洋一氏が就任した。
11月	多摩消防団副団長 井田 哲芳氏が藍綬褒章授与の栄に浴した。
平成29年 1月	南生田7丁目、一般住宅の火災で1棟74㎡が全焼し、死者2人を生じた。
3月	菅出張所の高規格救急車を更新配置した。
4月	第十九代署長に白石 与志夫氏が就任した。 多摩消防団第五代団長に井田 哲芳氏が就任した。
5月	菅仙谷1丁目、共同住宅の火災で1棟317㎡が全焼し、死者1人を生じた。
11月	多摩消防団副団長 増田 朝光氏が藍綬褒章授与の栄に浴した。
平成30年 3月	登戸、一般住宅の火災で158㎡を焼失し、死者1人、負傷者2人を生じた。
4月	多摩消防団に女性消防団員(13人)が入団した。 元多摩消防団長 松澤 忠志氏が瑞寶雙光章叙勲の栄に浴した。
6月	多摩消防研究会会員、高和電気工業(株)が優良危険物事業所として(一社)神奈川県危険物安全協会連合会会長表彰を受賞した。
11月	元多摩消防団長 松澤 喜義氏が瑞寶單光章叙勲の栄に浴した。 多摩消防団分団長 井口 保氏が藍綬褒章授与の栄に浴した。 多摩消防関係団体創立五十周年記念式典をホテルモリノ(麻生区)にて開催し、記念誌を作成した。
12月	宿河原出張所の改築工事に伴い、本署で業務を開始した。
平成31年 4月	第二十代署長に秋元 良己氏が就任した。
令和元年 5月	登戸新町において大規模救急事案が発生し、死者3人、負傷者16人を生じた。
8月	多摩消防署の高規格救急車を更新配置した。
10月	台風19号で区内約98,000㎡が浸水し、住宅約350軒が浸水被害を受けた。
11月	多摩消防団副団長 関 喜範氏が藍綬褒章授与の栄に浴した。
令和2年 1月	多摩区消防出初式が川崎市の代表会場として生田緑地において盛大に挙行された。
3月	宿河原出張所の改築工事が完了し、新庁舎で業務を開始した。 昭和59年に発足した「多摩地区婦人消防隊委員会」が発展的解散をした。
4月	第二十一代署長に若林 薫氏が就任した。 機構改革があり、予防課施設装備担当係長が廃止され、消防団担当係長を配置した。 宿河原出張所に救急車が配置され業務を開始した。 多摩消防団第六代団長に増田 朝光氏が就任した。 多摩消防団庶務部長 吉澤 偉臣氏が藍綬褒章授与の栄に浴した。 政府から新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が発令された。 川崎市業務継続計画(BCP)発動を踏まえた勤務体制に移行した。
6月	多摩消防研究会会員、小田急バス株式会社 登戸営業所が優良危険物事業所として(一社)神奈川県危険物安全協会連合会会長表彰を受賞した。
8月	菅馬場、専用住宅の火災で、木造2階建て建築面積103㎡、延べ面積132㎡専用住宅1棟全焼した。
12月	栗谷出張所の改築工事に伴い、本署で業務を開始した。
令和3年 1月	多摩区消防出初式を新型コロナウイルス感染拡大防止のため、表彰式のみとし、多摩区役所において挙行された。
5月	菅城下、一般住宅の火災で30㎡を焼失し、死者1人を生じた。
6月	多摩消防研究会会員マクセル(株)機能性部材料事業本部 佐久間 正和氏が優良危険物取扱者として(一社)神奈川県危険物安全協会連合会会長表彰を受賞した。
11月	前多摩消防団長 井田 哲芳氏が瑞寶雙光章叙勲の栄に浴した。
12月	長沢4丁目、共同住宅の火災で80㎡焼失し、死者1人、負傷者1人を生じた。
令和4年 2月	宿河原・栗谷出張所の消防ポンプ自動車を更新配置した。
3月	栗谷出張所の改築工事が完了し、新庁舎で業務を開始した。
4月	第二十二代署長に村上 治三郎氏が就任した。 機構改革があり、予防課消防団担当が廃止され、消防団・防災支援係を配置した。 副署長が予防課担当課長(消防団)に併任された。
6月	多摩消防団生田分団中央生田班の器具置場の移転工事が完了した。

年 月	事 項
令和4年 10月	栗谷出張所に高規格救急車を更新配置した。
11月	多摩消防団副団長 井田 久氏が藍綬褒章(秋)の栄に浴され、宮殿内見学の招待を受けた。
12月	多摩消防署の指揮車、多摩2、菅出張所の消防ポンプ自動車を更新配置した。 東三田1丁目、共同住宅の火災で、1棟260㎡が全焼し、死者1人を生じた。 多摩消防署の長寿命化工事(外壁塗装・屋上防水工事等)が完了した。
令和5年 1月	菅出張所の長寿命化工事(外壁塗装・屋上防水工事等)が完了した。
2月	多摩消防署の広報車、査察車を更新配置した。
3月	多摩消防署のポンプ積載自動車、運搬自動車を更新配置した。 菅出張所の高規格救急車を更新配置した。 多摩消防団生田分団東生田班のポンプ積載車を更新配置した。
4月	多摩消防団第七代団長に井口 保氏が就任した。 多摩消防団警護部長 木幡 義幸氏が藍綬褒章(春)の栄に浴され、天皇の拝謁を受けた。 前多摩防火協会会長 川崎 善太郎氏が旭日単光章の栄に浴した。
7月	多摩消防研究会会員、有限会社菱三商事 三平 等氏が優良危険物取扱者として(一社)神奈川県危険物安全協会連合会会長表彰を受賞した。

※令和3年以降の災害の掲載基準は①第2出場以上で複数棟に大きな被害が及んだ火災②死者(放火自殺を除く。)の生じた火災③社会的影響が大きい又は特異な災害等(川崎市消防局警防規程細則 第48条)とする。

管内状況

(令和5年3月31日現在)

項目 署所別	面積 (km ²)	世帯数	人口		
			総数	男	女
計	20.39	116,273	216,130	109,706	106,424
本署	5.29	31,924	55,968	28,937	27,031
菅	6.49	36,398	70,366	35,535	34,831
宿河原	3.75	23,200	43,517	22,247	21,270
栗谷	4.86	24,751	46,279	22,987	23,292

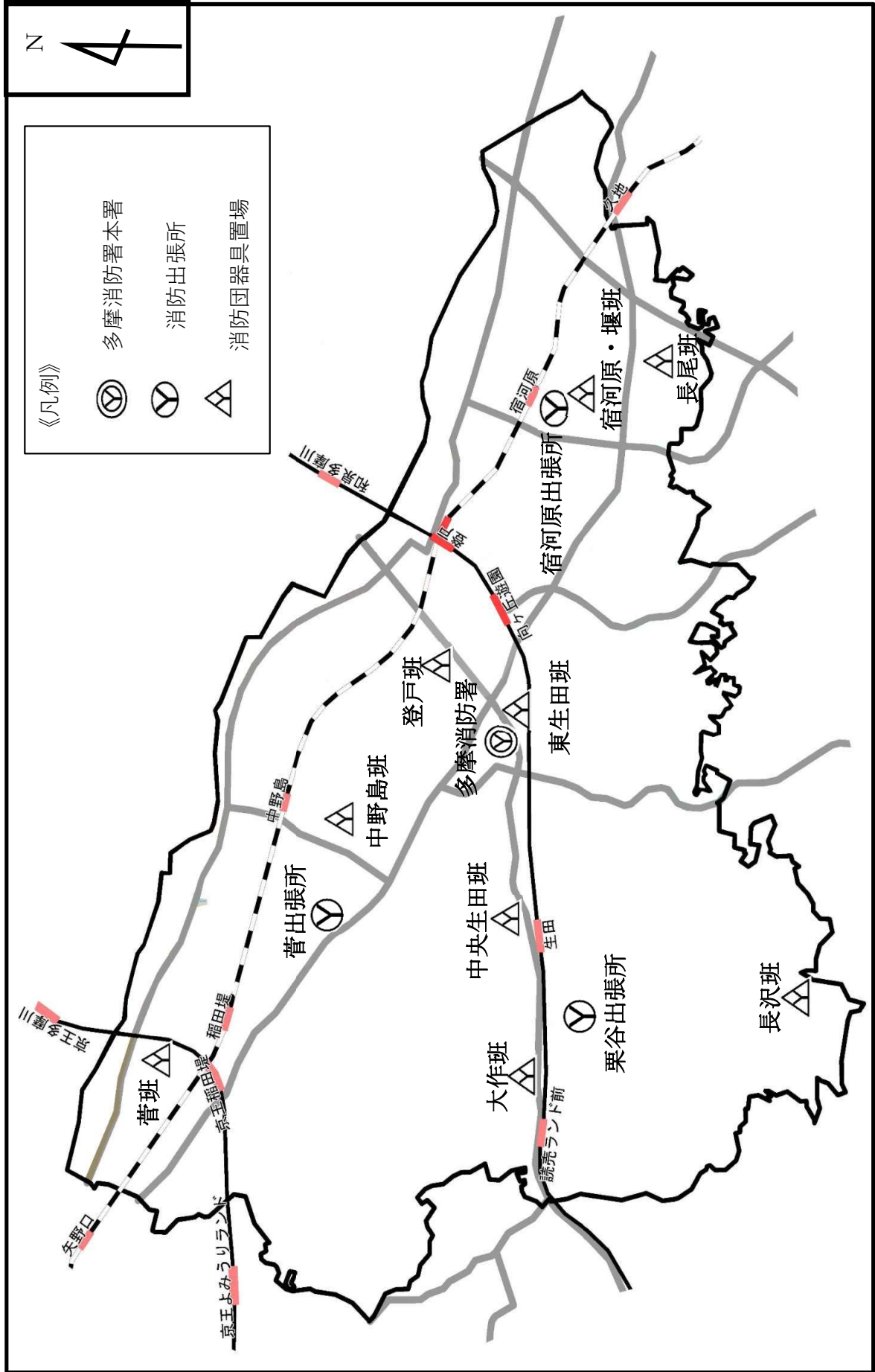
※本データは、令和5年3月末日現在の住民基本台帳人口及び世帯数を集計したもので、国勢調査の数値を基数として公表している「川崎市の世帯数・人口」（推計人口）や「川崎市年齢別人口」とは異なります。

署所の所在地・庁舎概要

(令和5年4月1日現在)

項目 署所別	所在地等	庁舎概要
本署	所在地 枳形2-6-1 電話 933-0119 FAX 922-8161	鉄筋コンクリート造3階建 延面積1,647.33m ² 、敷地1,762.92m ² 特殊設備：受変電設備(150kW)、プロパン庫6.4m ² 自家用給油取扱所(ガソリン4,800ℓ/軽油4,800ℓ) 自家発電設備(25kW)1基 (3.92kW(4.9KVA))1基 附属建物等：防火水槽(60t)、訓練棟・補助棟 油庫12.15m ² 、警防資器材庫8.91m ²
菅	所在地 菅馬場1-13-1 電話・FAX 945-0119	鉄筋コンクリート造2階建 延面積412.25m ² 、敷地382.41m ² 附属建物等：プロパン庫1.47m ² 、自転車置場9.2m ² ホース乾燥塔(鉄骨13m) 自家発電設備(3.92kW(4.9KVA))1基
宿河原	所在地 宿河原3-12-1 電話・FAX 900-0119	鉄筋コンクリート造2階建 延面積514.2m ² 、敷地390.55m ² 附属建物等：自転車置場15.01m ² ホース乾燥塔(鉄骨9.3m) 自家発電設備(3.92kW(4.9KVA))1基
栗谷	所在地 栗谷3-30-8 電話・FAX 953-0119	鉄筋コンクリート造2階建 延面積542.34m ² 、敷地952.25m ² 附属建物等：自転車置場11.17m ² ホース乾燥塔(鉄骨11.7m) 自家発電設備(3.92kW(4.9KVA))1基

多摩消防署・出張所・出張所、消防団器具置場配置図



署・所の受持区域

署所別	受持区域
本署	<p>登戸、登戸新町、和泉</p> <p>生田2丁目～4丁目、8丁目、東生田1丁目～4丁目</p> <p>栴形1丁目～7丁目</p> <p>東三田1丁目～3丁目</p>
菅	<p>中野島、中野島1丁目～6丁目、布田</p> <p>菅馬場1丁目～4丁目、菅野戸呂、菅城下、生田1丁目</p> <p>菅稲田堤1丁目～3丁目、菅1丁目～6丁目</p> <p>菅北浦1丁目～5丁目、菅仙谷1丁目～4丁目</p>
宿河原	<p>堰1丁目～3丁目、宿河原1丁目～7丁目</p> <p>長尾1丁目～7丁目</p>
栗谷	<p>生田5丁目～7丁目、三田1丁目～5丁目</p> <p>栗谷1丁目～4丁目、西生田1丁目～5丁目</p> <p>南生田1丁目～8丁目</p> <p>寺尾台1、2丁目、長沢1丁目～4丁目</p>

署員の配置

(令和5年4月1日現在)

階級別等		合計	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	会計年度等
課別										
基準		148	1	5	16	126			—	
合計		152 (13)	1	5	17	31 (2)	44 (5)	2	47 (4)	5 (2)
予防課		25 (8)	1	2	4	4 (1)	6 (3)	0	3 (2)	5 (2)
警防第1課		63 (2)	0	2	7	13	18 (1)	1	22 (1)	0
本署	消防隊・救助隊	22 (1)	—	2	2	6	6	—	6 (1)	—
	救急隊	7	—	—	2	1	1	—	3	—
菅	消防隊	6	—	—	1	1	2	—	2	—
	救急隊	5	—	—	—	1	1	—	3	—
宿河原	消防隊	7	—	—	1	1	2	1	2	—
	救急隊	5 (1)	—	—	—	1	2 (1)	—	2	—
栗谷	消防隊	6	—	—	1	1	2	—	2	—
	救急隊	5	—	—	—	1	2	—	2	—
警防第2課		64 (3)	0	1	6	14 (1)	20 (1)	1	22 (1)	0
本署	消防隊・救助隊	24 (2)	—	1	2	7	7 (1)	—	7 (1)	—
	救急隊	6	—	—	1	1	2	—	2	—
菅	消防隊	6	—	—	1	1	2	—	2	—
	救急隊	5	—	—	—	1	2	—	2	—
宿河原	消防隊	7	—	—	1	1	2	1	2	—
	救急隊	5 (1)	—	—	—	1 (1)	1	—	3	—
栗谷	消防隊	6	—	—	1	1	2	—	2	—
	救急隊	5	—	—	—	1	2	—	2	—

※1 担当課長（警防統括担当）は警防第1課に含みます。

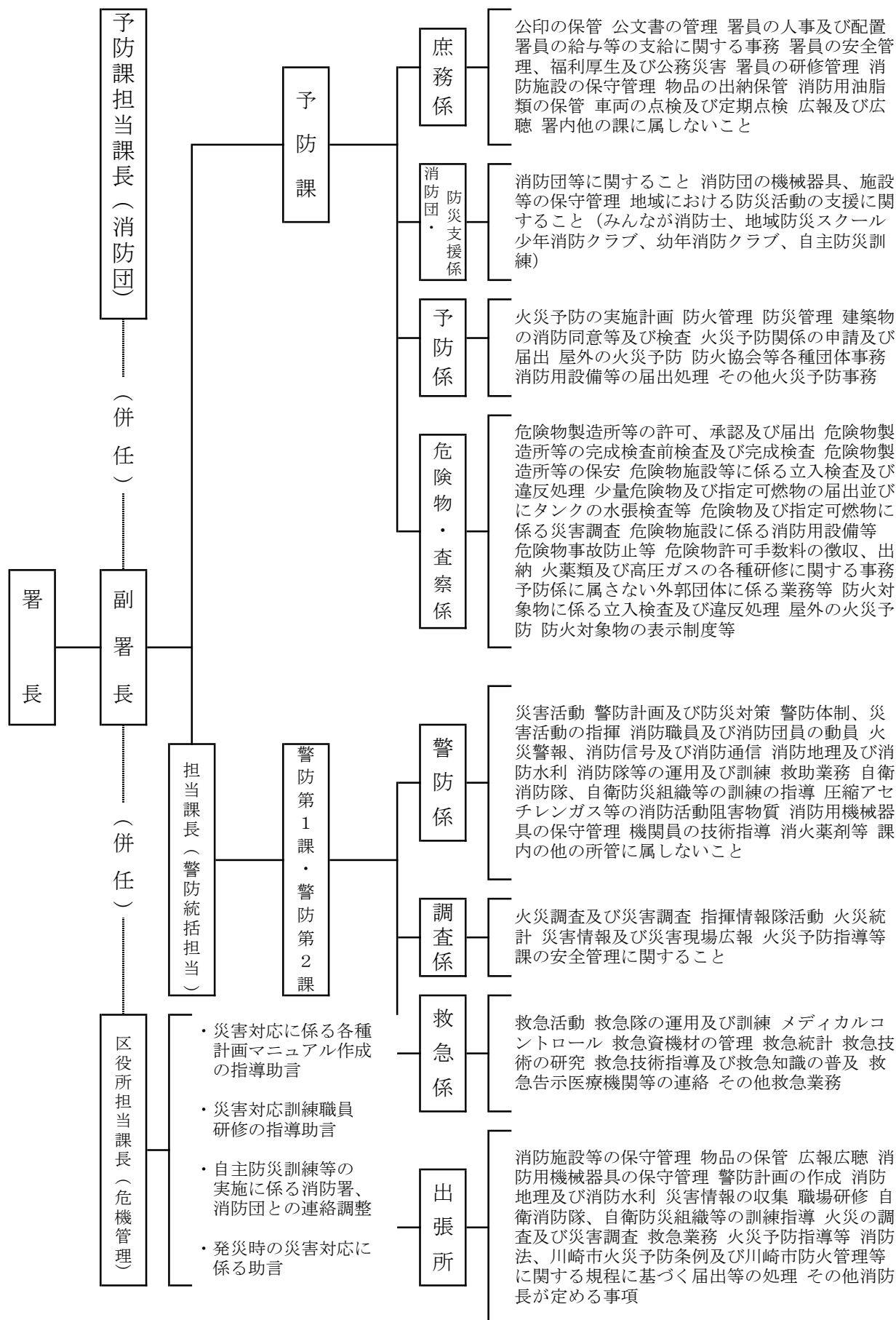
※2 ()内は、女性職員で内数です。

消防車両の配置状況

(令和5年4月1日現在)

No	配置場所	名称	社名	年式	ポンプ性能	登録番号
1	本署	多摩 1	日野	H 2 3	A - 2	川崎800 す 295
2		多摩 2	日野	R 4	A - 2	川崎800 は 1525
3		多摩救助	日野	H 2 2		川崎800 は 767
4		多摩はしご	UDトラックス マギルス(30m級)	H 2 4		川崎800 は 915
5		多摩指揮	トヨタ	R 4		川崎800 す 5802
6		多摩積載	トヨタ	R 5		川崎800 す 5917
7		多摩運搬	トヨタ	R 5		川崎800 す 5934
8		多摩救急	トヨタ	R 1		川崎800 す 4206
9		非常用救急車	トヨタ	H 2 8		川崎800 す 2501
10		広報車	ニッサン	H 2 9		川崎501 ち 9678
11		広報車	ホンダ	R 5		川崎301 と 4989
12		査察車Ⅱ	三菱	H 3 0		川崎480 き 295
13		査察車	スズキ	R 5		川崎580 ち 7672
14		多摩バイク	ホンダ	H 2 4		川崎 た 2559
15		多摩バイク	ホンダ	H 2 6		川崎 あ 5613
16	菅	菅	日野	R 4	A - 2	川崎800 さ 5834
17		菅救急	トヨタ	R 5		川崎800 す 5920
18		菅バイク	ホンダ	H 2 5		川崎 た 5173
19		菅バイク	ホンダ	H 2 8		川崎 ち 9777
20	宿河原	宿河原	日野	R 4	A - 2	川崎800 す 5403
21		宿河原救急	トヨタ	R 1		川崎800 す 4209
22		非常用消防車	日野	H 2 2	A - 2	川崎800 さ 9882
23		宿河原バイク	ホンダ	H 2 6		川崎 あ 5615
24		宿河原バイク	ホンダ	H 2 8		川崎 ち 6779
25	栗谷	栗谷	日野	R 4	A - 2	川崎800 す 5404
26		栗谷救急	トヨタ	R 4		川崎800 す 5746
27		栗谷バイク	ホンダ	H 2 5		川崎 た 5174
28		栗谷バイク	ホンダ	H 2 6		川崎 あ 5614

消防署の組織・事務分掌



防火対象物の状況

(令和5年4月1日現在)

消防法施行令別表による区分			防火対象物 総数	内 訳			
				1種	2種	3種	
		ア	イ				
合計			7,602	651	613	1,787	4,551
1	イ	劇場・映画館等	1	1	—	—	—
	ロ	公会堂又は集会場	0	—	—	—	—
2	イ	キャバレー・カフェ等	0	—	—	—	—
	ロ	遊技場・ダンスホール	9	9	—	—	—
	ハ	性風俗関連特殊営業店舗等	0	—	—	—	—
	ニ	カラオケボックス等	1	1	—	—	—
3	イ	待合・料理店	0	—	—	—	—
	ロ	飲食店	62	41	—	2	19
4	百貨店・マーケット等		89	60	—	1	28
5	イ	旅館・ホテル等	5	2	—	3	—
	ロ	寄宿舎・共同住宅等	5,606	—	426	1,558	3,622
6	イ	病院・診療所等	22	7	—	5	10
	ロ	老人福祉施設等	45	40	—	5	—
	ハ	保育園・老人デイサービスセンター等	114	72	—	31	11
	ニ	幼稚園・特別支援学校	15	13	—	—	2
7	小・中・高等学校		33	—	33	—	—
8	図書館等		3	—	2	—	1
9	イ	蒸気・熱気浴場等	0	—	—	—	—
	ロ	イ以外の公衆浴場	2	—	2	—	—
10	車両の停車場等		3	—	—	1	2
11	神社・寺院等		32	—	15	—	17
12	イ	工場・作業所等	82	—	4	10	68
	ロ	映画スタジオ又はテレビスタジオ	1	—	1	—	—
13	イ	自動車車庫等	3	—	—	1	2
	ロ	飛行機等の格納庫	0	—	—	—	—
14	倉庫		39	—	1	10	28
15	前各号に該当しない事業所		174	—	59	6	109
16	イ	複合用途	705	405	—	85	215
	ロ	上記以外の複合用途	554	—	68	69	417
16の2	地下街		0	—	—	—	—
16の3	準地下街		0	—	—	—	—
17	重要文化財等		2	—	2	—	—
18	アーケード		0	—	—	—	—

中高層建築物の状況

(令和5年4月1日現在)

区分		署所別					
		合計	本署	菅	宿河原	栗谷	
階 数 別	合計	934	373	247	130	184	
	5階	565	166	172	85	142	
	6階	165	82	36	23	24	
	7階	120	70	19	20	11	
	8階	24	20	3	0	1	
	9階	13	7	4	0	2	
	10階	14	9	2	0	3	
	11階	10	8	1	1	0	
	12階	5	2	2	0	1	
	13階	1	1	0	0	0	
	14階	11	6	4	1	0	
	15階	5	1	4	0	0	
	16階	0	0	0	0	0	
	17階	0	0	0	0	0	
	18階	0	0	0	0	0	
	19階	0	0	0	0	0	
	20階以上	1	1	0	0	0	
	高 さ 別	合計	934	373	247	130	184
		1.5m未満	352	84	118	53	97
1.5m以上 2.0m未満		394	157	99	63	75	
2.0m以上 2.5m未満		97	68	10	9	10	
2.5m以上 3.0m未満		42	32	7	2	1	
3.0m以上 4.0m未満		33	22	8	2	1	
4.0m以上 5.0m未満		14	8	5	1	0	
5.0m以上 6.0m未満		1	1	0	0	0	
6.0m以上 10.0m未満		1	1	0	0	0	
10.0m以上		0	0	0	0	0	

危険物施設の状況

(令和5年4月1日現在)

形態区分			合計	本署	菅	宿河原	栗谷	
合計			60	32	14	7	7	
製造所			1	1	—	—	—	
貯蔵所	屋内貯蔵所	専用棟	独立平屋建	7	6	—	—	1
		専用棟	高層倉庫	0	—	—	—	—
			階層の独立	0	—	—	—	—
			特定	2	1	—	1	—
			高層特定	0	—	—	—	—
			指定過酸化	0	—	—	—	—
		建物内設置(部分規制)	0	—	—	—	—	
	屋外タンク貯蔵所	1	1	—	—	—		
	屋内タンク貯蔵所	独立平屋	0	—	—	—	—	
		部分規制	0	—	—	—	—	
	地下タンク貯蔵所	17	6	7	1	3		
	簡易タンク貯蔵所	0	—	—	—	—		
	移動タンク貯蔵所	単一車	0	—	—	—	—	
		積載式	0	—	—	—	—	
	屋外貯蔵所	1	1	—	—	—		
取扱所	一般取扱所	一般	5	4	1	—	—	
		特例	吹付塗装作業所	0	—	—	—	—
			焼入作業等	0	—	—	—	—
			ボイラー等消費	7	2	2	2	1
			充填	1	1	—	—	—
			詰替え	4	2	1	—	1
		油圧措置等	0	—	—	—	—	
	移送取扱所	0	—	—	—	—		
	給油取扱所	営業用	屋外	7	3	1	2	1
			屋内	3	1	1	1	—
自家用		4	3	1	—	—		
上記施設の事業所数	予防規程該当		12	5	3	3	1	
	予防規程非該当		22	11	5	2	4	
	合計		34	16	8	5	5	

少量危険物施設の状況

(令和5年4月1日現在)

施設名 / 署所別	合計	本署	菅	宿河原	栗谷
合計	182	46	52	50	34
屋内貯蔵所	80	13	31	24	12
屋内タンク貯蔵所	24	9	2	7	6
屋外貯蔵所	3	1	—	1	1
屋外タンク貯蔵所	30	10	10	5	5
地下タンク貯蔵所	10	5	1	4	—
移動タンク貯蔵所	15	3	4	2	6
一般取扱所	20	5	4	7	4

指定可燃物施設の状況

(令和5年4月1日現在)

施設名 / 署所別	合計	本署	菅	宿河原	栗谷
指定可燃物施設	8	6	2	—	—

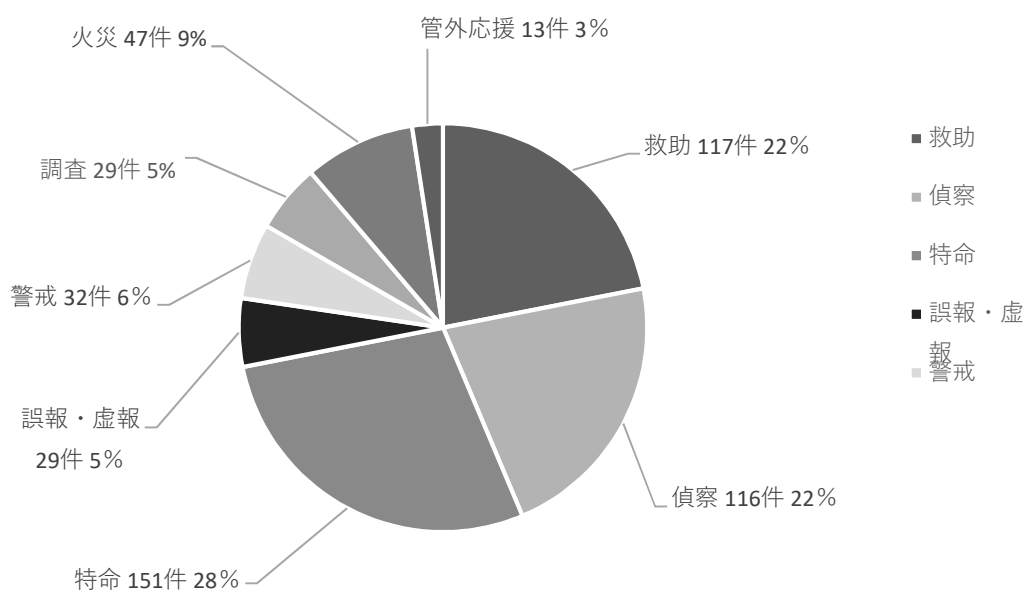
署所別消防水利の状況

(令和5年4月1日現在)

区分		署所別	合計	本署	菅	宿河原	栗谷
合計			3,402	856	999	598	949
消 火 栓	合計		3,252	813	947	576	916
	公 設	小計	3,212	808	929	574	901
		地下単口	2,574	649	723	468	734
		地下双口	638	159	206	106	167
		地上双口	0	0	0	0	0
		私 設	小計	40	5	18	2
	地下式		39	5	18	2	14
	地上式		1	0	0	0	1
防 火 水 そう	合計		106	31	40	11	24
	公 設	40 m ³ 未満	1	0	0	1	0
		40 m ³ 以上	66	15	27	7	17
		100 m ³ 以上	5	0	2	1	2
	私 設	40 m ³ 未満	3	3	0	0	0
		40 m ³ 以上	27	10	10	2	5
100 m ³ 以上		4	3	1	0	0	
そ の 他 の 水 利	合計		44	12	12	11	9
	プール		28	4	11	6	7
	沼(池)		1	0	0	1	0
	河川		11	7	0	3	1
	海・運河		0	0	0	0	0
	貯水施設		3	0	1	1	1
	その他		1	1	0	0	0

災害出場種別・状況

災害総件数 534件			(令和4年中)
1 救助	117件	22%	建物内 (76件)
			交通事故 (3件)
			その他 (32件)
			水難事故等 (6件)
2 偵察	116件	22%	自火報ベル鳴動 (99件)
			その他 (17件)
3 特命	151件	28%	PA連携 (151件)
			ヘリコプター救急支援 (0件)
			救急支援 (0件)
4 誤報・虚報	29件	5%	誤報 (28件)
			虚報 (1件)
5 警戒	32件	6%	燃料・油漏洩 (21件)
			ガス・油臭 (5件)
			その他 (6件)
			風水害 (0件)
6 調査	29件	5%	その他 (22件)
			焚き火の苦情 (7件)
7 火災	47件	9%	建物 (34件)
			その他 (12件)
			車両 (1件)
8 管外応援	13件	3%	東京都狛江市管内 (12件)
			東京都稲城市管内 (1件)
			東京都調布市管内 (0件)



火 災 発 生 状 況

令和4年															令和3年	
区 分	件 数	火 災 種 別							損 害 床 面 積 (㎡)	損 害 表 面 積 (㎡)	死 者	負 傷 者	損 害 額 (千 円)	件 数	損 害 額 (千 円)	
		建 物 火 災					車 両	そ の 他								
		全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	爆 発										
合 計	47	2	2	13	21	0	1	12	330.2	199.1	1	2	5,887	42	2,822	
1月	当月	4	1	1	2	4	—	—	134.5	180.0	—	—	2,175	2	1	
	累計	4	1	1	2	4	0	0	134.5	180.0	0	0	2,175	2	1	
2月	当月	4	—	—	1	2	—	—	36.0	—	—	1	162	4	218	
	累計	8	1	1	3	6	0	0	170.5	180.0	0	1	2,337	6	219	
3月	当月	5	—	—	2	1	—	—	1.0	1.0	—	—	42	2	—	
	累計	13	1	1	5	7	0	0	171.5	181.0	0	1	2,379	8	219	
4月	当月	6	—	—	3	2	—	—	13.0	3.5	—	1	448	3	26	
	累計	19	1	1	8	9	0	0	184.5	184.5	0	2	2,827	11	245	
5月	当月	6	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	4	8	1,232	
	累計	25	1	1	8	11	0	0	184.5	184.5	0	2	2,831	19	1,477	
6月	当月	2	—	1	—	1	—	—	44.0	9.0	—	—	728	1	17	
	累計	27	1	2	8	12	0	0	228.5	193.5	0	2	3,559	20	1,494	
7月	当月	1	—	—	1	—	—	—	20.0	—	—	—	170	1	1	
	累計	28	1	2	9	12	0	0	248.5	193.5	0	2	3,729	21	1,495	
8月	当月	4	—	—	1	2	—	—	—	1.5	—	—	23	2	634	
	累計	32	1	2	10	14	0	0	248.5	195.0	0	2	3,752	23	2,129	
9月	当月	4	—	—	1	3	—	—	—	1.5	—	—	24	8	138	
	累計	36	1	2	11	17	0	0	248.5	196.5	0	2	3,776	31	2,267	
10月	当月	2	—	—	—	1	—	—	—	0.3	—	—	2	2	2	
	累計	38	1	2	11	18	0	0	248.5	196.8	0	2	3,778	33	2,269	
11月	当月	5	—	—	1	1	—	1	1.5	—	—	—	36	1	1	
	累計	43	1	2	12	19	0	1	250.0	196.8	0	2	3,814	34	2,270	
12月	当月	4	1	—	1	2	—	—	80.2	2.3	1	—	2,073	8	552	
	累計	47	2	2	13	21	0	1	330.2	199.1	1	2	5,887	42	2,822	

火災の原因別状況

(令和4年中)

原因別		月別												
		合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
合計		47	4	4	5	6	6	2	1	4	4	2	5	4
放火(疑い含む)		9	—	1	2	1	3	1	—	—	—	—	1	—
たばこ		5	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	1	2
こ ん ろ	天ぷら油	3	1	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—
	その他	4	—	—	1	1	—	—	—	—	1	—	—	1
火遊び		1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—
ストーブ		2	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1
たき火		0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
溶接・溶断		0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
風呂釜		0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
そ の 他	電気関係	14	1	1	—	3	3	1	—	1	2	—	2	—
	マッチ・ライター	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—
	その他	8	2	2	1	1	—	—	—	1	—	—	1	—
調査中(不明を含む)		0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

町名別火災発生状況

(令和4年中)

町名別		月別												
		計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
合計		47	4	4	5	6	6	2	1	4	4	2	5	4
本署管内	登戸	9	1	—	—	—	2	1	—	—	1	—	1	3
	登戸新町・和泉	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	生田2～4・8丁目	3	—	—	2	—	—	—	—	—	—	1	—	—
	東生田1～4丁目	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	枅形1～7丁目	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	東三田1～3丁目	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
菅出張所管内	菅1～6丁目	5	—	1	—	1	—	—	—	1	1	—	1	—
	菅馬場1～4丁目	3	1	—	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—
	菅稲田堤1～3丁目	2	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—
	菅野戸呂	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	菅北浦1～5丁目	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	菅城下	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	菅仙谷1～4丁目	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	中野島	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	中野島1～6丁目	6	—	—	2	2	—	—	—	2	—	—	—	—
	布田	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	生田1丁目	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
出宿出張所管内原	宿河原1～7丁目	4	—	1	—	—	1	1	—	—	—	—	1	—
	長尾1～7丁目	2	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1	—
	堰1～3丁目	2	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—
栗谷出張所管内	生田5～7丁目	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	三田1～5丁目	4	—	—	1	1	—	—	—	1	1	—	—	—
	栗谷1～4丁目	2	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
	南生田1～8丁目	2	—	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—
	西生田1～5丁目	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	寺尾台1・2丁目	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	長沢1～4丁目	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

5 年間の火災統計

年別	項目	火災件数 (件)	出火率	焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額 (千円)	死者 (人)
平成 30年	川崎市	324	2.16	2,578	653	265,805	13
	多摩区	35	1.67	199	17	12,163	1
令和 元年	川崎市	328	2.14	17,601	457	1,251,838	5
	多摩区	35	1.59	125	36	5,026	0
令和 2年	川崎市	326	2.12	4,334	414	229,646	8
	多摩区	34	1.53	218	15	8,064	3
令和 3年	川崎市	363	2.36	1,995	534	143,463	11
	多摩区	42	1.97	201	40	2,822	2
令和 4年	川崎市	345	2.24	2,014	569	93,461	5
	多摩区	47	2.10	330	199	5,887	1

※出火率：火災件数÷人口×1万（1万人当たりの出火件数）

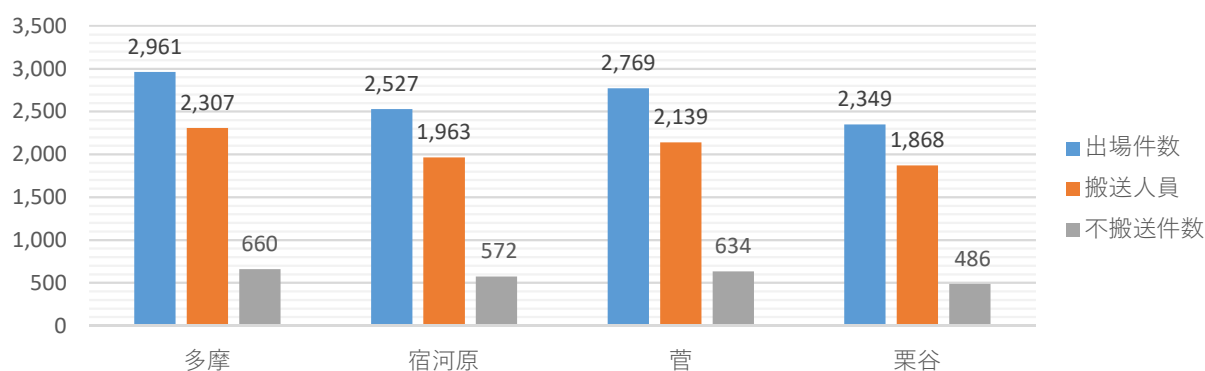
5年間の主な火災原因

年別		項目	火災件数 (件)	1位	2位	3位	4位	5位
平成 30年	川崎市		324	たばこ 59 18.2%	放火 55 17.0%	こんろ 44 13.6%	配線器具 22 6.8%	電気機器 21 6.5%
	多摩区		35	放火 11 31.4%	たばこ 8 22.9%	こんろ 4 11.4%	電気機器 3 8.7%	ストーブ 2 5.7%
令和 元年	川崎市		328	たばこ 56 17.1%	放火 43 13.1%	こんろ 34 10.4%	電灯・電話等 の配線 27 8.2%	電気機器 24 7.3%
	多摩区		35	たばこ 8 22.9%	放火 8 22.9%	こんろ 7 20.0%	電灯・電話等 の配線 3 8.6%	配線器具 3 8.6%
令和 2年	川崎市		326	放火 67 20.6%	たばこ 49 15.0%	こんろ 48 14.7%	電気機器 32 9.8%	電灯・電話等 の配線 18 5.5%
	多摩区		34	放火 10 29.4%	電気機器 4 11.8%	電灯・電話等 の配線 4 11.8%	たばこ 3 8.8%	こんろ 3 8.8%
令和 3年	川崎市		363	放火 71 19.6%	たばこ 51 14.0%	こんろ 32 8.8%	電気機器 32 8.8%	電灯・電話等 の配線 26 7.2%
	多摩区		42	放火 14 33.3%	たばこ 5 11.9%	こんろ 4 9.5%	電灯・電話等 の配線 4 9.5%	ストーブ 3 7.1%
令和 4年	川崎市		345	放火 58 16.8%	こんろ 54 15.6%	たばこ 39 11.3%	電灯・電話等 の配線 34 9.9%	配線器具 26 7.5%
	多摩区		47	放火 9 19.1%	こんろ 7 14.9%	電灯・電話等 の配線 7 14.9%	たばこ 5 10.6%	配線器具 5 10.6%

救急出場件数・搬送人員

(令和4年中)

区分	出場件数	搬送人員	不搬送件数
川崎市(29隊)	84,776	67,185	17,814
多摩区管内(4隊)	10,606	8,277	2,352
多摩救急隊	2,961	2,307	660
宿河原救急隊	2,527	1,963	572
菅救急隊	2,769	2,139	634
栗谷救急隊	2,349	1,868	486

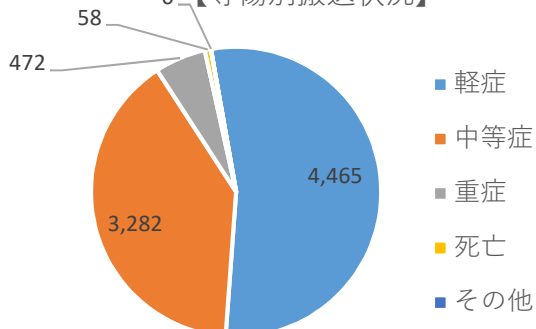


等症別・男女別搬送状況

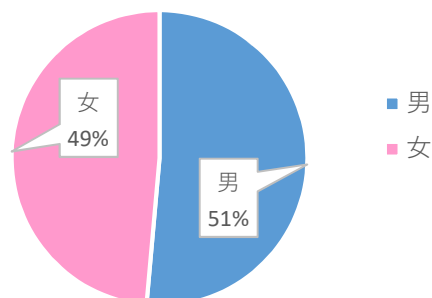
(令和4年中)

区分 \ 性別	合計	男	女
合計	8,277	4,255	4,022
軽症	4,465	2,322	2,143
中等症	3,282	1,639	1,643
重症	472	261	211
死亡	58	33	25
その他	0	0	0

【等傷別搬送状況】



【男女別搬送状況】

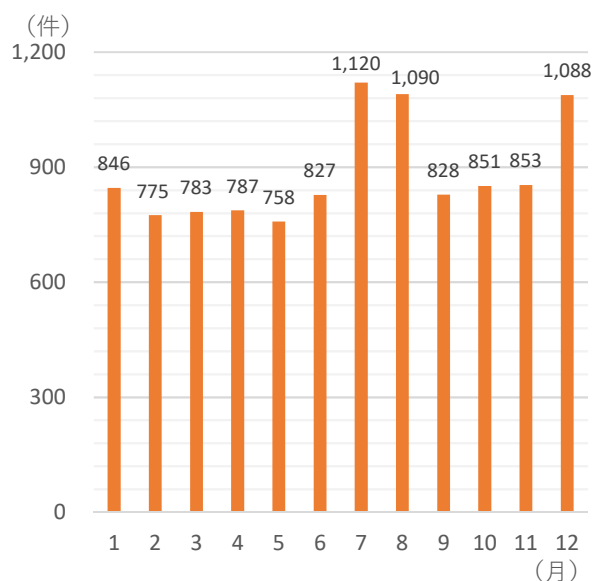


救急事故別・月別出場件数

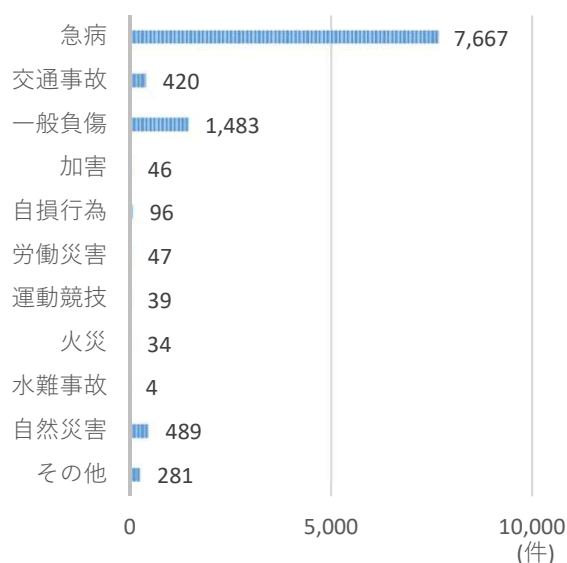
(令和4年中)

種別	月別													
	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
合計	10,606	846	775	783	787	758	827	1,120	1,090	828	851	853	1,088	
急病	7,667	588	556	570	558	542	583	865	847	588	600	589	781	
交通事故	420	36	23	32	37	39	27	37	38	37	44	37	33	
一般負傷	1,483	137	93	108	123	105	126	125	113	113	122	152	166	
加害	46	4	4	3	4	6	3	1	2	5	3	5	6	
自損行為	96	12	3	8	8	6	9	9	11	5	14	5	6	
労働災害	47	2	7	2	2	3	8	3	4	5	3	3	5	
運動競技	39	1	0	1	2	6	7	5	3	4	5	5	0	
火災	34	5	4	2	5	2	0	2	4	1	1	3	5	
水難事故	4	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	
自然災害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	転院	489	41	65	37	25	36	32	38	40	47	42	29	57
	医師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	資材	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	281	20	20	20	22	13	31	35	28	23	17	24	28

【月別出場件数】 (4隊)



【救急事故別出場件数】

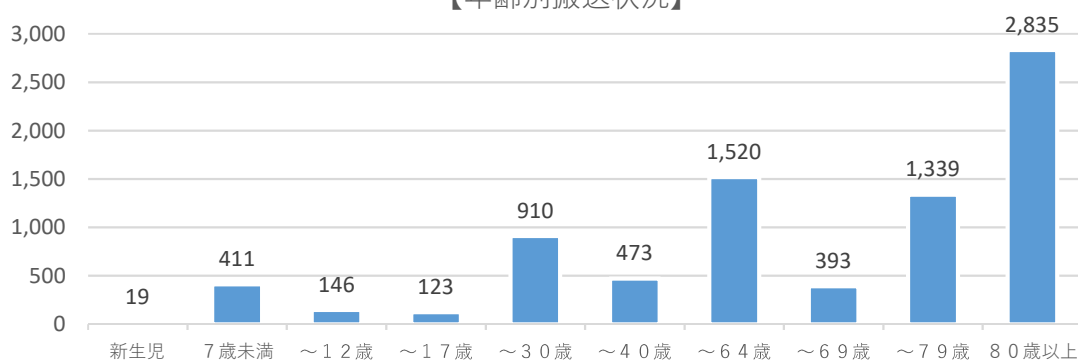


年齢別搬送状況

(令和4年中)

事故種別 年齢別		合計	火災	自然災害	水難事故	交通事故	労働災害事故	運動競技事故	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	
													転院	その他
合計	計	8,169	5	0	2	340	44	38	1,279	33	73	5,867	485	3
	男	4,250	3	0	1	217	37	28	567	17	26	3,099	254	1
	女	3,919	2	0	1	123	7	10	712	16	47	2,768	231	2
新生児 (生後28日以内)	計	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	18	0
	男	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	13	—
	女	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	—
7歳未満 (新生児を除く)	計	411	0	0	0	9	0	0	112	0	0	250	40	0
	男	267	—	—	—	6	—	—	71	—	—	171	19	—
	女	144	—	—	—	3	—	—	41	—	—	79	21	—
7歳～12歳	計	146	0	0	0	16	0	5	38	1	0	79	7	0
	男	91	—	—	—	14	—	5	28	1	—	40	3	—
	女	55	—	—	—	2	—	—	10	—	—	39	4	—
13歳～17歳	計	123	0	0	1	15	0	20	10	0	6	67	4	0
	男	66	—	—	—	9	—	15	4	—	1	34	3	—
	女	57	—	—	1	6	—	5	6	—	5	33	1	—
18歳～30歳	計	910	0	0	0	64	7	6	50	5	25	730	22	1
	男	476	—	—	—	49	6	4	29	1	10	373	4	—
	女	434	—	—	—	15	1	2	21	4	15	357	18	1
31歳～40歳	計	473	2	0	0	29	9	4	34	7	9	357	22	0
	男	236	2	—	—	15	8	3	20	2	2	180	4	—
	女	237	—	—	—	14	1	1	14	5	7	177	18	—
41歳～64歳	計	1,520	1	0	0	134	18	1	165	15	28	1,076	81	1
	男	898	1	—	—	82	15	—	89	10	10	634	56	1
	女	622	—	—	—	52	3	1	76	5	18	442	25	—
65歳～69歳	計	393	1	0	0	11	3	0	53	1	1	301	22	0
	男	233	—	—	—	7	3	—	25	1	—	183	14	—
	女	160	1	—	—	4	—	—	28	—	1	118	8	—
70歳～79歳	計	1,339	0	0	1	34	6	1	227	2	4	984	80	0
	男	755	—	—	1	20	4	1	105	1	3	565	55	—
	女	584	—	—	—	14	2	—	122	1	1	419	25	—
80歳以上	計	2,835	1	0	0	28	1	1	590	2	0	2,022	189	1
	男	1,214	—	—	—	15	1	—	196	1	—	918	83	—
	女	1,621	1	—	—	13	—	1	394	1	—	1,104	106	1

【年齢別搬送状況】



多摩消防団の定員・現員

(令和5年4月1日現在)

区分		階級別	合	団	副	本	分	副	部	班	団
		計	長	長	団	長	分	分	長	長	員
定員		175	1	2	4	2	166				
現員		159	1	2	4	2	4	12	11	123	
団本部		7	1	2	4	—	—	—	—	—	
女性消防団		14	—	—	—	—	—	—	—	14	
機能別団員		3	—	—	—	—	—	—	—	3	
稲田分団	小計	90	0	0	0	1	2	8	7	72	
	分団本部	11	—	—	—	1	2	8	—	—	
	菅班	20	—	—	—	—	—	—	2	18	
	中野島班	14	—	—	—	—	—	—	1	13	
	登戸班	17	—	—	—	—	—	—	2	15	
	宿河原・堰班	14	—	—	—	—	—	—	1	13	
	長尾班	14	—	—	—	—	—	—	1	13	
生田分団	小計	45	0	0	0	1	2	4	4	34	
	分団本部	7	—	—	—	1	2	4	—	—	
	東生田班	13	—	—	—	—	—	—	1	12	
	中央生田班	9	—	—	—	—	—	—	1	8	
	長沢班	11	—	—	—	—	—	—	1	10	
	大作班	5	—	—	—	—	—	—	1	4	

多摩消防団器具置場の状況

(令和5年4月1日現在)

区分	班名	所在地	建築年月日	建築物の概要		
				敷地面積 (㎡)	規模・階数	建築面積 (㎡)
稲田分団	菅班	菅 5-10-1	昭和60年3月	107.35	鉄骨造2階	60.75
	中野島班	中野島 2-5-1	平成2年1月	87.67	鉄骨造2階	63.83
	登戸班	登戸 1265-12	平成10年12月	115.50	鉄骨造2階	66.00
	宿河原・堰班	宿河原 3-12-11	昭和55年10月	町内会館 敷地内	鉄筋コンクリート造 2階	町内会館 1階 31.59
	長尾班	長尾 7-2-1	昭和58年11月	80.94	鉄骨造2階	48.76
生田分団	東生田班	柘形 3-2-17	平成26年8月	51.24	鉄骨造2階	32.03
	中央生田班	生田 7-16-1	令和3年6月	生田出張所 敷地内	鉄骨造3階	生田出張所 1階70.0
	長沢班	長沢 4-10	平成元年3月	123.69	鉄骨造2階	53.67
	大作班	西生田 2-12-4	昭和62年2月	105.78	鉄骨造2階	61.64

多摩消防団消防車両等の配置状況

(令和5年4月1日現在)

区分	班名	車両等	社名	年式	登録番号	備考
稲田分団	菅班	積載車 小型動力ポンプ	ニッサン ラビット シバウラ防災製作所	H 2 3	川崎800す424	備品 附属
	中野島班	積載車 小型動力ポンプ	ニッサン トーハツ 富士ロビン	H 2 2	川崎800す146	備品 附属
	登戸班	積載車 小型動力ポンプ	ニッサン トーハツ 富士ロビン	H 2 1	川崎800さ9715	備品 附属
	宿河原 堰班	積載車 小型動力ポンプ	ニッサン ラビット 富士ロビン	H 2 3	川崎800す425	備品 附属
	長尾班	積載車 小型動力ポンプ	ニッサン ラビット 富士ロビン	H 2 3	川崎800す426	備品 附属
生田分団	東生田班	積載車 小型動力ポンプ	トヨタ シバウラ防災製作所	R 5	川崎800す5947	備品 附属
	中央生田班	積載車 小型動力ポンプ	ニッサン トーハツ 富士ロビン	H 2 1	川崎800さ9716	備品 附属
	長沢班	積載車 小型動力ポンプ	ニッサン ラビット 富士ロビン	H 2 3	川崎800す427	備品 附属
	大作班	積載車 小型動力ポンプ	ニッサン トーハツ 富士ロビン	H 2 2	川崎800す147	備品 附属

小型動力ポンプ等の配置状況

(令和5年4月1日現在)

No.	設置場所	名称等	製造会社	型式	ポンプ性能	経過
1	本署 (登戸班)	多摩本団	シバウラ防災 製作所	P 4 5 6 (Fi6000)	B - 3	2 4川消施 第3 3 7 0号
2	本署 (東生田班)	対震5号	シバウラ防災 製作所	P 4 5 6 (Fi6000)	B - 3	2 4川消施 第3 3 7 0号
3	菅 (菅班)	対震13号	シバウラ防災 製作所	P 4 5 6 (Fi6000)	B - 3	2 5川消施 第2 4 4 6号
4	宿河原 (宿河原・堰班)	対震46号	シバウラ防災 製作所	P 4 5 6 (Fi6000)	B - 3	2 5川消施 第2 4 4 6号
5	栗谷 (大作班)	対震6号	シバウラ防災 製作所	P 4 5 6 (Fi6000)	B - 3	2 4川消施 第3 3 7 0号
6	栗谷 (長沢班)	対震47号	シバウラ防災 製作所	P 4 5 6 (Fi6000)	B - 3	2 5川消施 第2 4 4 6号

住宅防火 いのちを守る 10のポイント

4つの習慣



1 寝たばこは絶対にしない、させない

2 ストープの周りに燃えやすいものを置かない

3 こんろを使うときは火のそばを離れない

4 コンセントはほこりを清掃し、 unnecessary プラグは抜く

6つの対策



1 火災の発生を防ぐために、ストーブやこんろ等は安全装置の付いた機器を使用する

2 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する

3 火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類及びカーテンは、防火品を使用する

4 火災を小さいうちに消すために、消火器等を設置し、使い方を確認しておく

5 お年寄りや身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく

6 防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う

FDMA 消防庁
Fire and Disaster Management Agency
住民とともに
<https://www.fdma.go.jp/>

お問合せ先

多摩消防署予防課予防係

注意 令和5年4月1日施行の個人情報保護に関する法律に伴い、個人情報の取り扱いには十分注意してください。

発行 令和5年8月
川崎市多摩消防署

電話 044-933-0119

FAX 044-922-8161

電子メール 84tamayo@city.kawasaki.jp

火を消して 不安を消して つなぐ未来

(2023年度全国統一防火標語)



KAWASAKI CITY
Fire DEPT.Tasuke